

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

|       |                |      |         |        |            |             |   |   |   |    |     |           |  |
|-------|----------------|------|---------|--------|------------|-------------|---|---|---|----|-----|-----------|--|
| 事務事業名 | 市民意識調査事業       |      |         |        | 財務会計上の位置付け | 会計          | 款 | 項 | 目 | 細目 | 細々目 | 19予算額(千円) |  |
| 部等名   | 企画部            | 課等名  | 秘書広報文書課 |        | 包含する細々目    | 1           | 2 | 1 | 2 | 10 | 3   | 950       |  |
| 政策    | 9 市民と共に進める行政経営 |      |         |        |            |             |   |   |   |    |     |           |  |
| 施策    | 92 情報共有の促進     |      |         |        |            |             |   |   |   |    |     |           |  |
| 実施区分  | 継続             | 会計   | 一般会計    | 環境調整会議 | 不要         | 関連計画<br>条例等 |   |   |   |    |     |           |  |
|       |                | 事業期間 | 17      | 年度～    | 年度         |             |   |   |   |    |     |           |  |

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

|   |                      |                     |            |            |      |                  |
|---|----------------------|---------------------|------------|------------|------|------------------|
| 目的の記述                                       | 対象(人や物、自然資源など)       | 対象の大きさを表す対象指標名と単位   | 対象指標の数値    |            |      |                  |
|   | 満20歳以上80歳未満の市民       | 飯田市の人口(人)<br>(4月1日) | 現状又は19年度見込 | 23年度又は終了年度 |      | 23年度以前に終了した年度とする |
|   |                      |                     | 77127      | 77000      |      |                  |
|   |                      |                     | 現状又は19年度見込 | 23年度又は終了年度 |      |                  |
| 意図(成果は何か、対象をどうかえるか)                         | 成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位 | 成果指標の数値(実績・目標)      |            |            |      |                  |
| 市民の生活意識や市政に対する関心や期待などを把握し、行政の様々な施策の基礎資料とする。 | 有効回収数                | 18目標                | 1000       | 最終目標       |      |                  |
|   |                      | 18実績                | 992        | 19目標       | 1000 | ↑                |
|   |                      | 23目標                | 1000       | 23実績       |      | 最終目標達成年度         |
|   |                      | 18目標                |            | 最終目標       |      |                  |
|   |                      | 18実績                |            | 19目標       |      | ↑                |
|   |                      | 23目標                |            | 23実績       |      | 最終目標達成年度         |

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

|       |  |   |                        |                 |
|-------|--|---|------------------------|-----------------|
| 手段の記述 | 事業の全体概要(補足説明)  | 具体的活動内容(やり方、手順、詳細)  | 活動量を表す名称・単位            | 活動量の値           |
|       | アンケートによる市民意識調査<br>1 調査地域 飯田市全域<br>2 対象者 市内在住の満20歳以上80歳未満の市民<br>3 対象者数 2,000<br>4 抽出方法 住民基本台帳から地区別・年代別・男女別比率により無作為抽出<br>5 調査方法 質問紙を郵送配布し、回収も郵送により行う<br>6 調査集計 調査項目設定等ノウハウを持つ業者に一部委託して行う | 5次基本構想のスタートに合わせて、5月に実施する。質問内容は、行政評価上の指標として今後も定期的に目標設定と評価に使用できる項目として設定した。回収したアンケート結果は、広報いしだと市ホームページで公表。<br>年代別・地域別集計結果の精度を高めるため、対象を20歳から80歳までの人口比率による配布を行って実施した。 | アンケートの配布数<br>アンケートの回収数 | 2,000<br>992件   |
|       |  | 19年度は、的確な市民サービスと施策目標の設定した事業の評価が行えるように継続的に実施する。(年度末に近い時期での実施を想定)   | アンケートの配布数<br>アンケートの回収数 | 2,000<br>1,000件 |

|            |            |           |           |
|------------|------------|-----------|-----------|
| <金額の単位:千円> |            | 18決算額(見込) | 19予算額(当初) |
| 事業費        | 特定財源       |           |           |
|            | 国庫支出金      |           |           |
|            | 県支出金       |           |           |
|            | 起債         |           |           |
|            | その他        |           |           |
|            | 一般財源       | 587       | 950       |
|            | 事業費計(A)    | 587       | 950       |
| 人件費        | 正規職員所要時間   | 18年度 484  | 19年度 400  |
|            | 臨時職員等所要時間  |           |           |
|            | 人件費計(B)    | 1,731     | 1,430     |
|            | トータルコストA+B | 2,318     | 2,380     |

|             |  |
|-------------|--|
| 特定財源内訳や補足事項 |  |
|-------------|--|

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

|       |                              |                                  |           |      |      |      |    |
|-------|------------------------------|----------------------------------|-----------|------|------|------|----|
| 目的の記述 | 結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的        | 上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位             | 上位成果指標の数値 |      |      |      |    |
|       | 市役所・市民が情報を共有する。              | 市民が知りたい行政の情報が十分に入手できると感じている市民の割合 | 現状値       | 64.2 | 19実績 |      |    |
|       |                              |                                  | 20実績      |      | 21実績 |      |    |
|       |                              |                                  |           | 22実績 |      | 23目標 | 75 |
|       | 市民の意見が行政に反映されていると認識している市民の割合 | 市民の意見が行政に反映されていると認識している市民の割合     | 現状値       | 31.6 | 19実績 |      |    |
|       |                              |                                  | 20実績      |      | 21実績 |      |    |
| 22実績  |                              |                                  |           | 23目標 | 40   |      |    |

| この事業を開始したきっかけ                                       | 事業を取り巻く状況の変化 | 事業に対する市民や議会の意見   |
|---|--------------|--|
| 行政評価システムの導入により、定期的に政策や施策の現状を市民の意識調査により把握する必要が生じたため。 |              | < アンケート回答者からの意見 ><br>アンケートなどは、負担がかかるので、高齢者には依頼しないでほしい。(高齢の方より)<br>送付・返信用の封筒が大きすぎます。三つ折にして定型サイズでいいと思います。<br>意見を聞くとき、街に出て直接聞いてください。アンケートを元にして、もっと具体的な意見を汲み上げてください。 |

## 【See】18年度の振り返り

|                 |                                    |   |           |   |  |
|-----------------|------------------------------------|---|-----------|---|--|
| 目的<br>妥当性<br>評価 | この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？    | (評価) 結びつく (その理由)<br>意識調査を行うことにより、基礎資料が把握でき、的確な市民サービスや施策の目標設定、事業評価につながる。                               | 有効性<br>評価 | 成果をさらに向上させる余地はありますか？                    | (評価) 余地がある (その理由)<br>意識調査回収率の向上、地域別や年代別の集計結果の精度を高めるために回収率を考慮した調査表の配布や、配布から回収までの期間の確保、興味と関心を持ってもらう依頼方法等の工夫、調査協力依頼の徹底などにより、回収率を向上させる余地がある。 |
|                 | 対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？            | (評価) 必要性がない (その理由)<br>20歳未満でも対象と考えられる調査項目もあり、検討も必要と考えられるが、施策評価指標として継続的に数値比較し精度を高めるためには、対象の見直しの必要性はない。 |           | 廃止・休止した場合の影響はありますか？                     | (評価) 影響あり (その理由)<br>行政評価における成果指標の状況把握が困難となる。   |
|                 | 意図の見直しの必要性はありますか？                  | (評価) 必要性がない (その理由)<br>市民意識調査の意図は、市民の生活意識や市政に対する関心や期待などを把握し、行政の様々な施策の基礎資料とすることであり、見直しの必要はない。           |           | 他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？ | (評価) 統合不可能 (類似事業名、理由)<br>部門ごとの各種のアンケート調査事業が行われているが、より詳細な内容であったり、対象が特定された調査であり、行政評価指標の数値として活用するための一般的な意識調査との統合は難しい。                       |
|                 | 市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)？ | (評価) 必要ある (その理由)<br>行政の各種施策の評価をする観点など市民の意識を把握することは、行政課題であり、関与する必要がある。                                 |           | 成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？               | (評価) 可能 (その理由)<br>意識調査の回収費用についてのより経費削減を図るよう努める。  |
|                 |                                    |   | 公平性<br>評価 | 受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？             | (評価) 妥当である (受益者とその理由)<br>行政の施策目標などに使用する意識調査事業であり、市民への負担は求めることはできない。  |

## 【Plan】改革改善

| 今後の事業の方向性   | 何を、いつまでにどうするのかの改革改善案   |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 終了<br><input type="checkbox"/> 廃止<br><input type="checkbox"/> 休止<br><input type="checkbox"/> 目的見直し<br><input type="checkbox"/> 別事業に統合<br><input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善<br><input type="checkbox"/> 現状維持 | 若年者の有効回答数を高める必要があり、20歳から80歳までの人口比率による配布を検討<br>意識調査表の調査回収手段の検討(郵送料の削減)<br>調査集計方法等のマニュアル作成の実施することによる人件費の削減 |
| 上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法   | 集計分析方法の整理と集計期間等の短縮   |

### 【補足事項環境側面】

|                            |        |                 |
|----------------------------|--------|-----------------|
| (1) 環境影響評価の必要性判断           | 必要性がない | (2) 必要性な場合の実施事由 |
| (3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？ |        |                 |

### 【指摘事項】

|                  |  |
|------------------|--|
| 施策マネジメント会議       |  |
| 施策評価会議           |  |
| 第5次基本構想基本計画推進委員会 |  |